

等と

覚かく

寺じ



苅田町

山伏十二道具

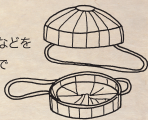
① 斑蓋

峰入りなどの際に用いられる、楕円で円型になった雨露よけの笠。斑蓋は仏頂荘嚴の天蓋を示し、衆生が母体内にいる時の胎衣を示すという。



② 頭巾

峰入りなどの際に、山中の薄気などを防ぐための小頭巾、黒の漆塗りで12の襟の付け中央の頂が山形になっている



③ 結袷袋

九条袷袋を修行に便利するように簡略化した修験道独自の袷袋。



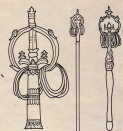
④ 法螺

巻貝の大きなものに歌口をつけること意外に大きな音が出るので、修験者が読経・合図・指令などの際にいる。



⑤ 錫杖

木製の棒の先に、両側に各三つの鉄の円環をはめた、半月形の鉄輪をつけ、音が出るようにしたもの。修験者は六輪はめられた菩薩錫杖を用いる。



⑥ 笈

山伏が峰入の際に必要な道具を入れて背負うもので、修験道の教義を形象化したもの。笈には、正先達が用いる「板笈(緑笈)」と、新客が用いる「横笈」がある。



⑦ 最多角念珠

修験道で用いられるソロパンの玉の形をした百八の珠からなる念珠。念珠は煩惱を断じて仏果を生み出す法具とされている。



⑧ 肩箱

肩箱は笈の上のにせる木製被蓋の長さ1尺8寸、横6寸、高さ5寸の箱。山伏はこれの中に峰書などの貴重品を入れていた。



⑨ 金剛杖

山伏が山中を歩いて修行する際に雑念や煩惱をはらうために用いる木製の杖。



⑩ 鈴懸

山伏の法衣で、袖二幅、身二幅、襟一幅、脇入二幅からなる上衣と、8枚の布を用いて前に六ひだ、後に三ひだ渡る袴からなる。



⑪ 引敷

峰入の山伏が腰につける小さな皮の敷物で、多くは鹿・熊・兎などの皮にひもを付け、腰にしぼりつけて尻の敷物とする。



⑫ 脚半

山伏が足の保護のために脛に巻く布、筒脚半(胎藏界)、剣先脚半(金剛界)、胎金不二の脚半の3種類がある。



等覚寺の催し

- 4月 網うち
柱おこし
等覚寺の松会
竹の子掘り
- 6月 田植え
そば種まき
- 7月 コスモス種まき
- 8月 いくり収穫
- 10月 稲刈り
そば収穫
- 12月 新そば試食会



最寄の駅・インターなどからのアクセス

- 苅田北九州空港インターより車で約30分
- 苅田駅から 10km 車で約20分
- 小波瀬西工大前駅から 9.3km 車で約20分
- 行橋駅から 9.6km 車で約22分



(令和5年1月改定版)